

シーズ・ニーズマッチング交流会2021 東京

令和3年12月8日(水) 11:10~11:40

「失語症のリハビリテーション
に役立つ支援機器」

日本言語聴覚士協会
常任理事 白波瀬元道



失語症とは

失語症とは、脳血管疾患等により言語野が損傷されることによって、**一度獲得した言語（日本語・英語など）を使用することが困難になった状態**のこと。

失語症になると、考えていることを言葉にしたり、言葉を理解したりすることが困難となる。

失語症とは

失語症になると程度の差はあるが、

「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」

といった言語のすべての側面が困難となる。

「計算」をすることにも障害が現れる。

損傷を受けた脳の場所や損傷の大きさによって、障害の現れ方が一人一人異なる。

失語症の症状（代表的な症状）

話す

- ・ 喚語困難：身近な物の名前が出てこない
- ・ 錯語：違った言葉を言ってしまう

読む

- ・ 読解障害：文字や文章を見ても意味が理解できない

聴く

- ・ 語音認知障害：耳は聞こえるが言葉が聞き取れない
- ・ 語義理解障害：言葉を聞き取れても意味が理解できない

書く

- ・ 文字想起困難：書きたい文字を思い出せない
- ・ 錯書：間違った文字を書いてしまう



失語症とは（疫学）

《失語症者の脳卒中患者に占める割合》

- ・ 3. 4% 日本失語症研究会失語症全国実態調査委員会.“失語症全国実態調査報告”.音声言語医学(20)1979, 160-172
- ・ 4. 2% 日本失語症研究会失語症全国実態調査委員会.“失語症全国実態調査報告”.失語症研究(15)1995, 83-96

⇒概ね4%とすると

脳血管疾患総患者数：約111万人*×4%÷45,000人

*平成29年（2017）患者調査の概況 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/17/index.html>

脳血管疾患以外の要因（頭部外傷や変性疾患等）で失語症を呈する場合も多い。

* 正確な実態は分かっていないが、**20～50万人**とも言われている。

失語症のリハビリテーション

急性期

発症～1ヶ月程度の時期。
症状が変動するため、大まかな言語症状を把握する。

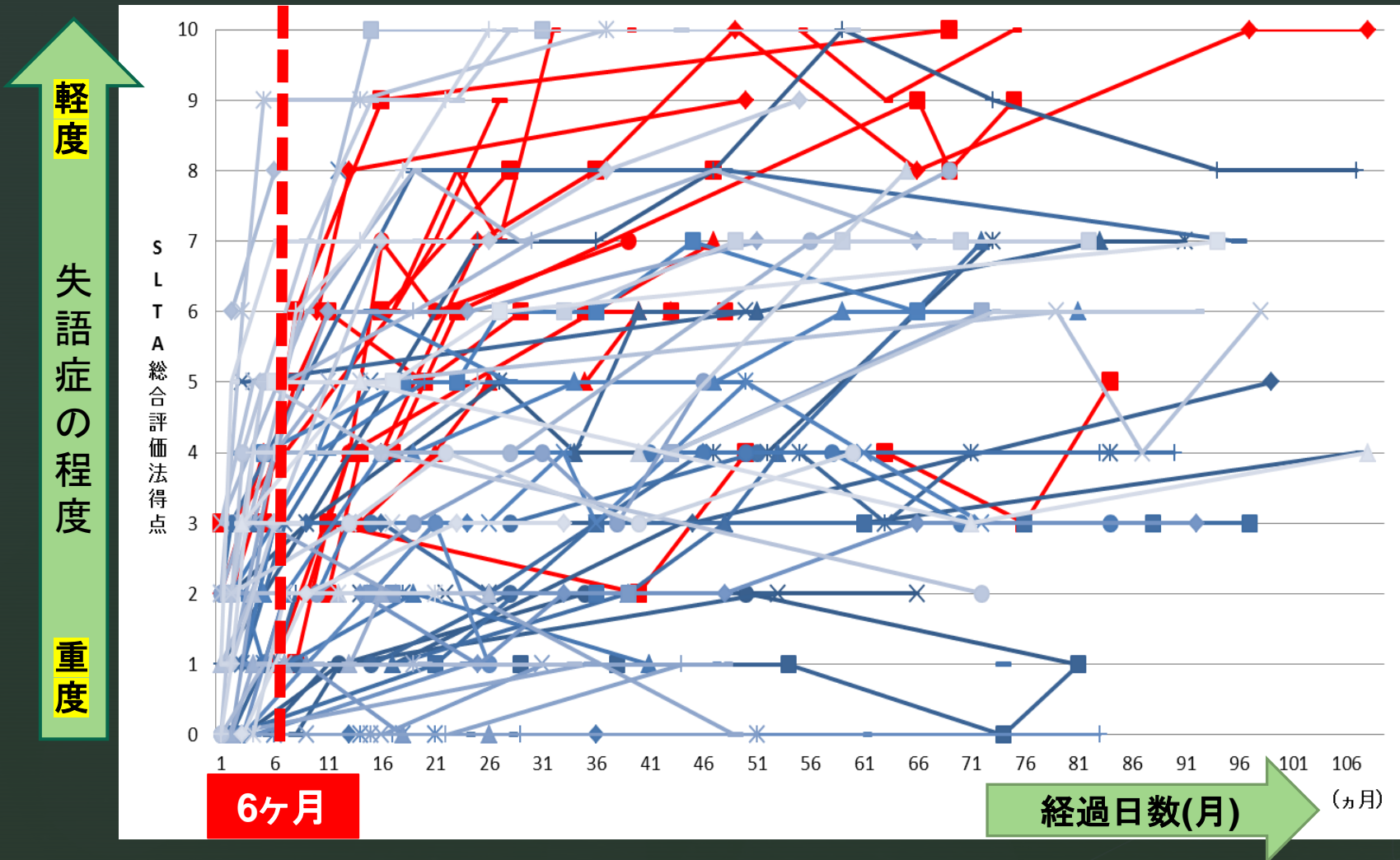
回復期

発症～6ヶ月程度までの時期。
集中的なリハビリが可能。言語機能を精査、言語機能回復訓練や代償手段の検討を行う。

維持期

発症後6ヶ月以降の時期。
身体機能と比較して、年単位で言語機能は回復。
ただし、完全に回復することが困難であることも多く、代償手段の獲得や環境調整を行うことも重要。

失語症のリハビリテーション



失語症のリハビリテーション

役立つ道具

紙・鉛筆



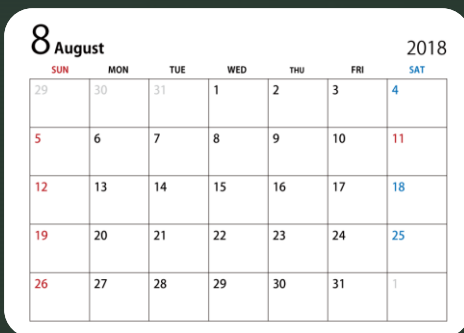
地図・路線図



写真・アルバム



カレンダー・時計



新聞・チラシ



失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（一例）



(a) トップ画面 (b) 文字読み上げ機能



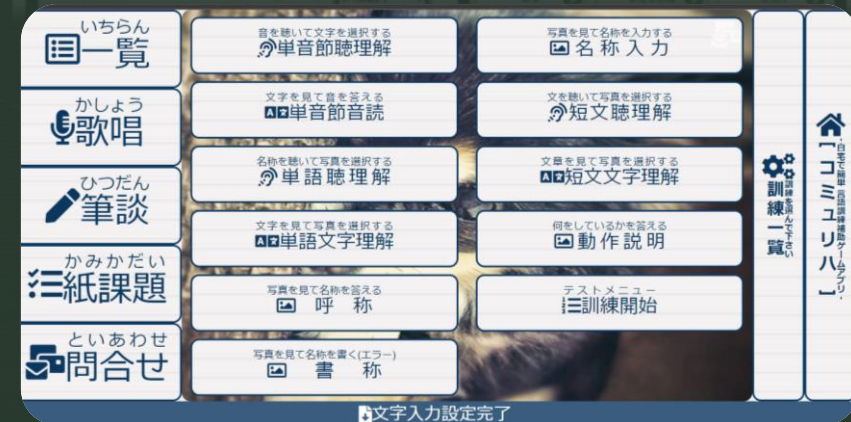
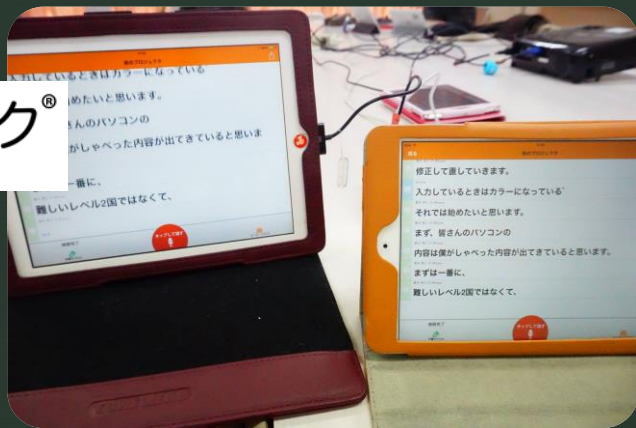
<https://yubidenwa.jp/shitsugo/>



高野倉 雅人ら：失語症者のコミュニケーションを支援するアプリケーションの開発, 2019



<https://udtalk.jp/>



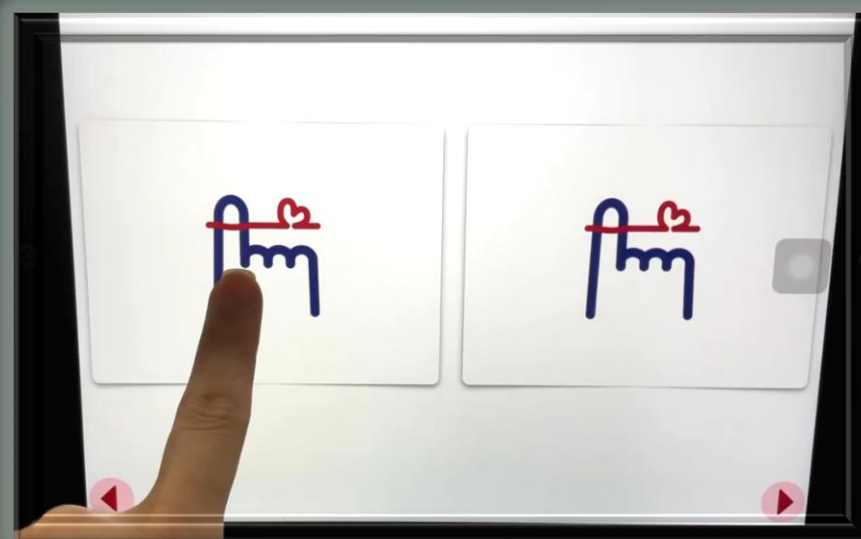
<https://eastpons.com/>

失語症のリハビリテーションに 役立つ支援機器（活用事例）

- ・ 言語訓練に活用（i P a d）



呼称訓練（宿題にも活用）



仮名文字の訓練（宿題にも活用）

失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器（活用事例）

- ・ 外来リハビリ通院時のタクシー利用場面において



「めじろ台南まで
お願いします。」

「八王子駅北口まで
お願いします。」

失語症のリハビリテーションに 役立つ支援機器（活用事例）

- ・生活場面で
読み上げ機能を活用



失語症のリハビリテーションに 役立つ支援機器（活用事例）

- ・生活場面で
趣味の話題にも



失語症者向け意思疎通支援事業

平成25年4月の「障害者総合支援法」の施行に伴い、意思疎通支援事業は地域生活支援事業の必須事業として位置づけられた。

手話通訳者や要約筆記者などに加え、失語症者のコミュニケーションの援助も。

支援者の役割は失語症者のコミュニケーションを支援し、日常生活をサポートする。



まとめ

- ・失語症は程度の差はあるが、「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」といった言語のすべての側面が困難となる。また、一人一人症状の現れ方が異なる。
- ・失語症は長期間にわたって回復する。
- ・様々なICT機器が失語症の訓練やコミュニケーションの代償手段の選択肢を増やしている。その効果と限界を知る必要がある。
- ・一人でも多くの失語症者の社会参加を実現するために、支援機器や人の支援を活用できる環境を整えていくことが肝要である。